

地域協働学校だより No.10

平成31年3月5日
新宿区立市谷小学校
地域協働学校運営協議会

2月26日に「命・人の大切さについて考える」講演会が4、5、6年生向けに行われ、がんサバイバーである石谷一寿さんのお話を伺いました。見学させていただきましたのでご紹介いたします。

『人・命の繋がりについて考える』～学生の皆さんに伝えたいこと～

あと5年しか生きられないとしたら、あなたは何をしますか

石谷さんは2年前の29歳の時に精巣腫瘍・リンパ腫と診断されました。これは、罹患する人が10万人に1人という珍しいがんでした。即入院、手術で闘病生活が始まりました。がん患者の5年後生存率は60%です。5年以内に死んでしまう可能性があるのだとわかりました。一方、自分ががん患者になってみると、がんについて知らない人が多い、ということにも気がきました。

がんという病気

日本で1年間に新たにがんと診断される人は1,013,600人、1年間にがん で亡くなる人は379,900人、日本人の2人に1人ががんを患い、3人に1人が死亡します。がんは日本人の死因第一位の病気です。

ふつう体内の細胞はコピーされて増えていくのですが、その過程で突然変異でがん細胞になることがあります。がん細胞が増えると正常な細胞が働かなくなり、これががんという病気です。誰でもなる可能性があります。

タバコなど発がん性物質が含まれるものを多く摂取したり、生活習慣が乱れたりするとがんになりやすくなりますから、健康的な生活習慣を身に付けることが予防法と言えます。

がんは小さいうちに早期発見して治療すれば治ります。ですから定期的にがん検診を受けることが大切です。

闘病とネクタイリレー

石谷さんのがんの治療は辛いものでした。手術を2回、化学療法、リハビリ。髪が抜け、2か月間は1時間おきに嘔吐、苦手な注射も3か月間で135回に及びました。それを乗り越えられたのは、周りからの励ましがあったからです。石谷さんが企画した「ネクタイリレー」をみんなが応援してくれました。



石谷さんは闘病中、毎朝起きて着替えるとネクタイを締めて写真を撮り、SNSにアップしていました。「自分は生きて頑張っているよ」と日本や外国にいる友達に知らせるためです。ネクタイは友人・知人に借りたもので、このネクタイをいつか返しに行くために今日を頑張る、という目標でもありました。ネクタイリレーのことがたくさんの人に知られるようになると、会ったことのない人や海外の人からもネクタイが届くようになりました。以前スポーツを教えていた子供たちからも手作りの紙のネクタイが届きました。石谷さんが、人の温かさ、すばらしさを知った経験でした。

人は一人では生きていけません。闘病中、石谷さんがつらかったのは、自分は人から必要とされていないかも

石谷一寿(いしたにかずとし)さん



香川県出身。高校時代には野球部で甲子園にも行ったスポーツマン。現在もスポーツ指導やスポーツ選手のサポート、講演プロデュースなどを行う。リーフラス株式会社所属。

29歳だった2016年12月にがん宣告を受ける。二回の手術と化学治療やリハビリを経て、2017年11月に社会復帰。

しれない、自分はいない人間なんじゃないかと思ったときでした。闘病を経験して、その時に励ましてくれた人がいたように、自分も周りの人を大切にしたいと考えました。

大切にすること：違いと理解

講演の中の活動で、児童たちは「自分の大切なものシート」にそれぞれ大切な物、人、行為を書き込みました。そしてそれを周りのお友達と比べてみました。大切な物はみんな一緒ではありません。石谷さんからの問いは「相手や自分の大切なものを、実際に大切にできていますか？」というものでした。

人はそれぞれ違います。考え方や大切な物も違えば、病気や障害も違います。周りの人の違いを知って理解し合うことが大事です。

周りの人、大事な友人、家族、先生を大切にできていますか？感謝は言葉と行動で表さないと伝わりません。「ありがとう」と伝えましょう。今大切な物・人がある状態は、本当に「有難い」ことなのです。

今を大切に

石谷さんの人生の目標は、家族や闘病中助けてくれた大切な人たちを守ること、そして、もしあと5年しか生きられないとしたら、「誰かのために全部やる」と考えているそうです。

「今を大切にしているいろいろなことにチャレンジしてほしい。」

そして周りの人を大切にしよう。大切な人に感謝を伝えよう。」

石谷さんは、7月の車いすのアスリート堀江さんの講演会のコーディネーターもしてくださった方です。好きなスポーツに関わること、他人との違いを理解し認め合うこと、そして他の人に自分のメッセージを伝えることという、やりたいことをお仕事にして、まさに「全部やる」まっすぐな姿勢に感動しました。三学年（4、5、6年生）に1時間ずつ3時間かけて本当に熱心にメッセージを伝えてくださいました。児童たちは帰宅してからおうちの方に「ありがとう」と言ったのではないのでしょうか。

市谷小学校の学習活動は多くの地域の方に支えられています。いくつかの例をご紹介します。

3年生 地域安全マップ作り

3年生は総合的な学習の時間で、学校の外でどのように自分たちの安全が守られているのかを考えるため地域安全マップを作成します。3月1日には、グループに分かれて実際に家や学校の周りを歩いて、危険な場所や「子ども110番の家」を確認しました。各グループには、地域の方や地域協働学校運営協議委員が一人ずつ引率として付き添ってくださいました。



5年生 食育・フードロス学習

5年生の総合学習では、フードロスについて自分たちにできることを考えてきました。スクールコーディネーターや地域の方々のご協力により、3月7日から児童たちが作成したポスターを神楽坂商店街に貼らせていただくことになりました。児童たちは、お店と連絡を取ったりするなど、貴重な経験をさせていただきました。

ご協力くださった地域の皆様、ありがとうございました。